

2025年2月5日
株式会社 セキネ

遺伝子改変ドナーブタの生産に向けた新たな協力体制
セキネ、ポル・メド・テックに4億円出資

関係者各位

全国各地の養豚農家向けに施設建設および機器製造を行っている株式会社セキネ（本社 深谷市、代表取締役社長 篠崎壮登、以下当社）は、遺伝子改変されたドナーブタ（以下ドナーブタ）をヒトへの臓器移植用に提供する明治大学発ベンチャーの株式会社ポル・メド・テック（本社：川崎市、代表取締役 長嶋比呂志、三輪玄二郎、以下ポル・メド・テック）に4億円を出資しました。この出資を契機に、当社はドナーブタの生産施設ならびに研究開発関連施設の建設に取り組む考えです。

ブタの臓器をヒトに移植する異種移植は、すでに米国で臨床応用が行われており、昨年3月にはハーバード大学マサチューセッツ総合病院の河合達郎教授の執刀によって、世界で初めて治療目的で遺伝子改変されたブタの腎臓を用いた臓器移植が行われました。ポル・メド・テックは、米国イージェネシス社(eGenesis)が開発しマサチューセッツ総合病院で移植された遺伝子改変ドナーブタを、クローン技術を用いて再現出産し、飼育および移植前ウイルス検査を実施する体制を構築しています。これまでに、昨年2月以降、累計31頭のドナーブタの生産に成功しています。

日本では、心停止後や脳死後のドナーからの臓器提供を待つ移植希望者は多数いますが、実際に臓器提供を受けられる患者数は限られています。ドナーブタによる異種移植は、これらの患者に新たな選択肢を提供することが期待されています。当社は、ポル・メド・テックがドナーブタの生産を行っている施設に対して、技術的な支援と機器類の提供を行ってきた実績があります。今後も、当社が長年にわたり培ってきた養豚施設の建設ノウハウを同社に提供し、ドナーブタの大量生産・供給のエコシステム構築に協力していく所存です。

(株)ポル・メド・テック新規資金調達の概要

① 資金調達額	5億1072万円（うち(株)セキネ分は3億9998万円）
② 割当先	株式会社セキネ、日揮みらい投資事業有限責任組合、長嶋比呂志（ポル・メド・テック代表取締役）、三輪玄二郎（ポル・メド・テック代表取締役）、天野維一郎（ポル・メド・テック常務取締役）
③ 調達方法	第三者割当増資

株式会社セキネ代表取締役社長、篠崎壮登のコメント

創業から85年、(株)セキネは養豚の施設づくり一筋で取り組んで参りました。これまで培ってきた技術と経験を活かし、世界に先駆けたドナー豚の大量生産・供給のエコシステム構築に貢献していきたいと考えております。日本の医療発展に尽力して参ります。

ポル・メド・テック代表取締役チーフ・サイエンティスト、長嶋比呂志のコメント

有望な医療技術である異種移植を、臓器移植を待ち望む多くの患者さんに届けるためには持続性のある体制作りが必須です。今回の増資により、研究開発、医療、産業、行政が一体となった体制作りの第一歩を踏み出すことができたと考えています。

株式会社セキネについて

会社名	株式会社セキネ
事業	全国各地の養豚農家向けに施設建設および機器製造を行っており、特注品の製造において高い技術力を持つ。研究施設でも多数の実績を有している。養豚施設で発生する有機物を原料としたバイオガス発電事業や太陽光発電事業など、環境への取り組みにも積極的。
創業	1940年3月
本社	〒366-8567 埼玉県深谷市田所町 15-1
問い合わせ先	https://www.sekine-net.jp/contact/

ポル・メド・テックについて

会社名	株式会社ポル・メド・テック
事業	明治大学の研究成果を基盤とした遺伝子改変ブタのクローニング技術等の最先端発生工学技術を駆使し、異種移植時の拒絶反応を抑制した遺伝子改変ドナーブタの生産・供給体制を構築し、臓器移植の普及と医療の改善を目指しています。
設立	2017年2月
本社	〒214-0034 神奈川県川崎市多摩区三田 2-3227 明治大学地域産学連携研究センター201号室
問い合わせ先	https://pomedtec.com/index.html#contact